

浜の活力再生プラン  
(第2期)

1 地域水産業再生委員会 浜プラン ID: 1102004

組織名	野辺地町地域水産業再生委員会
代表者名	会長 山縣勝彦（代表理事組合長）

再生委員会の 構成員	野辺地町漁業協同組合、野辺地町、東青地域県民局地域農林水産部青森地方水産業改良普及所
オブザーバー	青森県農林水産部水産局水産振興課

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	青森県上北郡野辺地町、ホタテ養殖漁業者数64名、刺網・桁網・底見漁業者33名
-------------------	--

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

野辺地町では、ホタテガイ養殖漁業を主体に、ナマコ・カレイ等の魚介類を漁獲する桁曳網・刺網・底見漁業が営まれている。このうち、ホタテガイ養殖漁業者は、異常高水温によるへい死被害を抑制するため、漁協および青森県関係機関と協力して定期的に水温把握を行い、水温変化に応じて、養殖施設の設置水深の調整を行っている。しかし、平成29年度は、下半期の高水温やヤマセの影響によるホタテガイのへい死で減産となり、種苗も影響を受けた。平成28年および平成29年の前半までホタテガイの単価が高値で推移し経営は安定したが、平成30年度には、生産量の減少と単価の低下により、一変して経営が苦しい状況となり、ホタテガイ生産の体質強化が課題となっている。

ナマコについては、安定生産を図るため、ホタテガイ貝殻を利用したナマコ増殖礁を設置するとともに漁獲量の自主制限や天然採苗によって積極的な資源増殖を行ってきた。

近年では、ナマコは輸出向け加工原料として引き合いが強まり、単価が上昇した影響で漁獲が伸びる中、このまま高水準で漁獲を続けると資源量が減り始めるのではないかと危機感を抱いている。

(2) その他の関連する現状等

近年の原油価格の高騰による漁船用燃油・漁業資材の値上がりが漁業経営を圧迫しているほか、漁業者の高齢化・後継者不足による労働力の減少により、地域経済の活力が低下している。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

--

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

- ①ナマコの漁獲量向上のため、種苗生産・放流による資源量の安定を図る。  
前期ではナマコ増殖礁の設置により生産量の安定が図られたが、更なる漁獲量向上と資源量増加を目指して種苗生産・放流に取り組む。
- ②養殖ホタテガイの中間洗浄での付着物除去による成長促進と残渣排出量の低減に取り組む。

- ③衛生管理体制を継続した地域産ホタテガイのイトーヨーカ堂等の国内量販店等へのPR活動を促進する。
- ④減速航行および効率的な漁場利用の実施による燃油消費量の削減に取り組む。

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

青森県海面漁業調整規則や漁業権行使規則により、資源管理措置を徹底して資源保護を図っている。ホタテガイ養殖については、陸奥湾地区良質ホタテガイ安定生産推進漁場改善計画を作成し、養殖施設数を遵守して漁場環境の保全に努めるほか、陸奥湾内のホタテガイ生産量の総量規制であるTASC（タスク）制度の遵守により、ホタテガイの品質安定と生産量確保に取り組んでいる。

(4) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（平成31年度）

以降、以下の取組内容は、取組の進捗状況や得られた知見等を踏まえ、必要に応じて見直すこととする。

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の収入向上の取り組みにより、基準年比2.0%の所得向上を図る。</p> <p>①ナマコの漁獲量向上に向けた種苗生産・放流による資源量の安定</p> <p>ナマコの単価はここ数年高値で推移しているが、漁獲量は年々減少傾向にある。安定した漁家経営に向けて漁獲量を向上させるため、種苗生産および放流によるナマコの資源量の増大に取り組む。</p> <p>②養殖ホタテガイの中間洗浄での付着物除去による成長促進と残渣排出量の低減</p> <p>洋上洗浄機を活用して年2回以上耳吊り成員の中間洗浄を行うことで、付着物除去による貝の成長促進と、養殖残渣排出量低減による経営安定を図る。</p> <p>上記対策に加え、成熟度調査・ラーバ調査・付着稚貝調査および成長状況のモニタリングの実施、潮流などの海況情報や貝毒情報などの収集に加えて、適正な養殖管理を行うことでへい死を抑制し、ホタテガイの成長促進に努める。</p> <p>地まき貝については、漁業者全員での地まき漁場の清掃による漁場環境の保全、放流用稚貝の選別や放流密度管理の徹底によりへい死を抑制し、安定生産を図る。</p> <p>③衛生管理体制を継続した地域産ホタテガイの国内量販店等へのPR活動</p> <p>漁協は、ホタテガイ養殖場について、衛生条件が厳格な対EUの養殖場登録を受けるなど衛生管理に取り組んでおり、また、水揚げされたホタテガイについても、ホームページの「ほたて生産出荷管理情報システム」により生産履歴の把握を可能にする「トレーサビリティ」を導入しており、野辺地産ホタテガイのPRに大きく寄与していることから、これらの「食の安全・安心」の取組む野辺地産のホタテガイを量販店等に発信していく。</p>
<p>漁業コスト削減のため</p>	<p>④減速航行および効率的な漁場利用の実施による燃油消費量の削減</p> <p>減速航行の推進及び作業時に効率的に施設を回ることにより、燃油消費量</p>

の取組	の削減を図る。
活用する支援措置等	省燃油活動推進事業（国）、水産生産基盤整備事業（国）

2年目（平成32年度）

漁業収入向上のための取組	<p>以下の収入向上の取り組みにより、基準年比2.1%の所得向上を図る。</p> <p>①ナマコの漁獲量向上に向けた種苗生産放流による資源量の安定  ナマコの単価はここ数年高値で推移している、漁獲量は年々減少傾向にある。安定した漁家経営に向けてナマコの資源量の増大を図り、その漁獲量を向上させるため、種苗生産および放流に毎年取り組む。</p> <p>②養殖ホタテガイの中間洗浄での付着物除去による成長促進と残渣排出量の低減  洋上洗浄機を活用して年2回以上耳吊り成貝の中間洗浄を行うことで、付着物除去による貝の成長促進と、養殖残渣排出量低減による経営安定を図る。  上記対策に加え、成熟度調査・ラーバ調査・付着稚貝調査および成長状況のモニタリングの実施、潮流などの海況情報や貝毒情報などの収集に加えて、適正な養殖管理を行うことでへい死を抑制し、ホタテガイの成長促進に努める。  地まき貝については、漁業者全員での地まき漁場の清掃による漁場環境の保全、放流用稚貝の選別や放流密度管理の徹底によりへい死を抑制し、安定生産を図る。</p> <p>③衛生管理体制を継続した地域産ホタテガイの国内量販店等へのPR活動  漁協は、ホタテガイ養殖場について、衛生条件が厳格な対EUの養殖場登録を受けるなど衛生管理に取り組んでおり、また、水揚げされたホタテガイについても、ホームページの「ほたて生産出荷管理情報システム」により生産履歴の把握を可能にする「トレーサビリティ」を導入しており、野辺地産ホタテガイのPRに大きく寄与していることから、これらの「食の安全・安心」の取組む野辺地産のホタテガイを量販店等に発信していく。</p>
漁業コスト削減のための取組	④減速航行および効率的な漁場利用の実施による燃油消費量の削減 減速航行の推進及び作業時に効率的に施設を回ることにより、燃油消費量の削減を図る。
活用する支援措置等	省燃油活動推進事業（国）、水産生産基盤整備事業（国）

3年目（平成33年度）

漁業収入向	以下の収入向上の取り組みにより、基準年比2.1%の所得向上を図る。
-------	-----------------------------------

<p>上のための取組</p>	<p>①ナマコの漁獲量向上に向けた種苗生産放流による資源量の安定</p> <p>ナマコの単価はここ数年高値で推移している、漁獲量は年々減少傾向にある。安定した漁家経営に向けてナマコの資源量の増大を図り、その漁獲量を向上させるため、種苗生産および放流に毎年取り組む。</p> <p>②養殖ホタテガイの中間洗浄での付着物除去による成長促進と残渣排出量の低減</p> <p>洋上洗浄機を活用して年2回以上耳吊り成貝の中間洗浄を行うことで、付着物除去による貝の成長促進と、養殖残渣排出量低減による経営安定を図る。</p> <p>上記対策に加え、成熟度調査・ラーバ調査・付着稚貝調査および成長状況のモニタリングの実施、潮流などの海況情報や貝毒情報などの収集に加えて、適正な養殖管理を行うことでへい死を抑制し、ホタテガイの成長促進に努める。</p> <p>地まき貝については、漁業者全員での地まき漁場の清掃による漁場環境の保全、放流用稚貝の選別や放流密度管理の徹底によりへい死を抑制し、安定生産を図る。</p> <p>③衛生管理体制を継続した地域産ホタテガイの国内量販店等へのPR活動</p> <p>漁協は、ホタテガイ養殖場について、衛生条件が厳格な対EUの養殖場登録を受けるなど衛生管理に取り組んでおり、また、水揚げされたホタテガイについても、ホームページの「ほたて生産出荷管理情報システム」により生産履歴の把握を可能にする「トレーサビリティ」を導入しており、野辺地産ホタテガイのPRに大きく寄与していることから、これらの「食の安全・安心」の取組む野辺地産のホタテガイを量販店等に発信していく。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>④減速航行および効率的な漁場利用の実施による燃油消費量の削減</p> <p>減速航行の推進及び作業時に効率的に施設を回ることにより、燃油消費量の削減を図る。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>省燃油活動推進事業（国）、水産生産基盤整備事業（国）</p>

4年目（平成34年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の収入向上の取り組みにより、基準年比2.1%の所得向上を図る。</p> <p>①ナマコの漁獲量向上に向けた種苗生産放流による資源量の安定</p> <p>ナマコの単価はここ数年高値で推移している、漁獲量は年々減少傾向にある。安定した漁家経営に向けてナマコの資源量の増大を図り、その漁獲量を向上させるため、種苗生産および放流に毎年取り組む。</p> <p>②養殖ホタテガイの中間洗浄での付着物除去による成長促進と残渣排出量の低減</p> <p>洋上洗浄機を活用して年2回以上耳吊り成貝の中間洗浄を行うことで、付着</p>
---------------------	---

	<p>物除去による貝の成長促進と、養殖残渣排出量低減による経営安定を図る。</p> <p>上記対策に加え、成熟度調査・ラーバ調査・付着稚貝調査および成長状況のモニタリングの実施、潮流などの海況情報や貝毒情報などの収集に加えて、適正な養殖管理を行うことでへい死を抑制し、ホタテガイの成長促進に努める。</p> <p>地まき貝については、漁業者全員での地まき漁場の清掃による漁場環境の保全、放流用稚貝の選別や放流密度管理の徹底によりへい死を抑制し、安定生産を図る。</p> <p>③衛生管理体制を継続した地域産ホタテガイの国内量販店等へのPR活動</p> <p>漁協は、ホタテガイ養殖場について、衛生条件が厳格な対EUの養殖場登録を受けるなど衛生管理に取り組んでおり、また、水揚されたホタテガイについても、ホームページの「ほたて生産出荷管理情報システム」により生産履歴の把握を可能にする「トレーサビリティ」を導入しており、野辺地産ホタテガイのPRに大きく寄与していることから、これらの「食の安全・安心」の取組む野辺地産のホタテガイを量販店等に発信していく。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>④減速航行および効率的な漁場利用の実施による燃油消費量の削減</p> <p>減速航行の推進及び作業時に効率的に施設を回ることにより、燃油消費量の削減を図る。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>省燃油活動推進事業（国）、水産生産基盤整備事業（国）</p>

5年目（平成35年度）

取組の最終年度であり、前年度に引続き行いが、目標達成が確実なものとなるよう、プランの取組状況を確認しつつ、必要に応じて施策の見直しを行う。

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の収入向上の取り組みにより、基準比2.1%の所得向上を図る。</p> <p>①ナマコの漁獲量向上に向けた種苗生産放流による資源量の安定</p> <p>ナマコの単価はここ数年高値で推移している、漁獲量は年々減少傾向にある。安定した漁家経営に向けてナマコの資源量の増大を図り、その漁獲量を向上させるため、種苗生産および放流に毎年取り組む。</p> <p>②養殖ホタテガイの中間洗浄での付着物除去による成長促進と残渣排出量の低減</p> <p>洋上洗浄機を活用して年2回以上耳吊り成貝の中間洗浄を行うことで、付着物除去による貝の成長促進と、養殖残渣排出量低減による経営安定を図る。</p> <p>上記対策に加え、成熟度調査・ラーバ調査・付着稚貝調査および成長状況のモニタリングの実施、潮流などの海況情報や貝毒情報などの収集に加えて、適正な養殖管理を行うことでへい死を抑制し、ホタテガイの成長促進に努める。</p> <p>地まき貝については、漁業者全員での地まき漁場の清掃による漁場環境の保全、放流用稚貝の選別や放流密度管理の徹底によりへい死を抑制し、安定生産</p>
---------------------	---

	<p>を図る。</p> <p>③衛生管理体制を継続した地域産ホタテガイの国内量販店等へのPR活動</p> <p>漁協は、ホタテガイ養殖場について、衛生条件が厳格な対EUの養殖場登録を受けるなど衛生管理に取り組んでおり、また、水揚されたホタテガイについても、ホームページの「ほたて生産出荷管理情報システム」により生産履歴の把握を可能にする「トレーサビリティ」を導入しており、野辺地産ホタテガイのPRに大きく寄与していることから、これらの「食の安全・安心」の取組む野辺地産のホタテガイを量販店等に発信していく。</p>
漁業コスト削減のための取組	④減速航行および効率的な漁場利用の実施による燃油消費量の削減 減速航行の推進及び作業時に効率的に施設を回ることにより、燃油消費量の削減を図る。
活用する支援措置等	省燃油活動推進事業（国）、水産生産基盤整備事業（国）

(5) 関係機関との連携

再生委員会を中心に、養殖管理や資源増殖については青森県漁業協同組合連合会や青森県、（地独）青森県産業技術センター水産総合研究所など関連機関の助言や指導を受けながら、浜の活力再生プランの効果的な実施に取り組む。

4 目標

(1) 所得目標

漁業所得の向上10%以上	基準年	平成25年度～平成29年度（5中3平均） ：漁業所得 千円
	目標年	平成35年度 ：漁業所得 千円

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

漁業所得について、漁協を通して申告書を提出している漁業者の平成25年～平成29年の確定申告に基づいて集計した。  
水揚等は漁協の業務報告書を引用した。  
詳細については別添資料のとおり。

(3) 所得目標以外の成果目標

ナマコ幼生放流数	基準年	平成31年：0（個体）
	目標年	平成35年：500,000（個体）

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

根拠資料のとおり

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
省燃油活動推進事業（国）	漁業者が減速走行することで、漁船燃油使用量の削減が期待される。
沿岸漁業改善資金（県）	作業用及び航行用機器の更新を、適期に行うことができる。
水産生産基盤整備事業（国）	水産物の輸出促進等、水産業の国内・国際競争力強化と地域の活性化に資する漁港・漁村づくり。